



「来年は優勝したいです」と高田さん

輝いています

全国高等学校定時制通信制体育大会 剣道団体3位

ひと

たか だ み さき
高田 美咲 さん

悔しい思いを力に変えて

真

剣なまなざしで竹刀を振る戸田翔陽高校2年生の高田美咲さん（16歳・塚越2丁目）は、先月開催の全国高等学校定時制通信制体育大会剣道大会で、県代表として団体戦3位に輝きました。剣道有段者の父を持ち、2歳の誕生日プレゼントが竹刀だったという高田さんは、東小学校4年生のとき塚越剣友会に入会。老若男女が通う同会で感謝の心と礼儀のたいせつさを学びながら稽古に励み、部活動との両立で着々と力をつけていきました。そして今年5月の県大会で準優勝を果たし、2年連続個人での全国出場に加え、県選抜の団体戦メンバー入りも果たしました。

高田さんの武器は、冷静に相手の攻めを読み取る洞察力。攻めに對し、それに合った応じ技で返していきます。全国大会に向けて強みを生かすため、同じスタイルのトップ選手の映像を繰り返し見て研究。更に、県選抜練習に参加して仲間と鍛錬を積み、結束力を高めるなど努力を重ねました。迎えた全国大会。昨年の団体戦で補欠に回り、目の前でチームの優勝を見ていた高田さんは、2年分の思いを込めて憧れの舞台に立ちました。予選リーグを全勝で通過し、強豪との準決勝。先鋒を取られて後がなくなり、重圧でいっぱいになりますが、監督の「一本取ってこい」の一言で冷静さを取り戻すと、得意の応じ技で面を決めて一本勝ち。大将戦に望みをつなげました。しかし、チームは惜しくも敗退。全国制覇の難しさを感じる悔しい結果となりました。来年の目標は団体での王座奪還と個人での上位入賞。「もう悔しい思いをしないように仲間と切磋琢磨してリベンジしたいです」と語る高田さん。自分と仲間を信じて竹刀を振り続けた先には、栄光への道が続いていることでしょう。

今月の河鍋曉斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.76—



河鍋筆「蛙の人力車と郵便夫」
紙本墨画淡彩 軸装

蛙の親子が乗る人力車と、大きな郵便袋を提げて歩く蛙の郵便夫を描いた、曉斎の掛け軸作品です。文明開化とともに発明された人力車や電信柱は、蛙たちに合わせて蓮の葉や茎、花などで描かれており、明治時代初期の開化風俗をユーモラスに表現しています。なお、蛙は曉斎が数え3歳で初めて写生して以来、数多く描いた愛着のある生き物です。自身の墓石を蛙の形をした自然石にするなど、曉斎は終生、蛙を慈しみました。

河鍋曉斎記念美術館
開催中

企画展「曉斎・曉翠 動物画—いきものたちの世界—」展
同時開催 特別展「『曉斎楽画』の世界」展

開 館=午前10時～午後4時

休 館=火・木曜日、毎月26日～末日、
年末年始

ところ=南町4-36-4

入館料=一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証
をご提示ください

詳 細=同館(☎441・9780)



展示会の詳しい
内容は美術館の
ホームページを
御覧ください



Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の曉翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 曉斎

天保2年(1831)

～明治22年(1889)